

# いのちと地域を守る

## 濁流逃げ切れず屋根に

津波が来るなんて、想像もできていなかった。近所のかみ屋の店も出なかった。夫の遺品も当調子が、津波の程になり、2011年3月11日は忘れぬ日と覚えておきたい。津波が来るなんて、想像もできていなかった。近所のかみ屋の店も出なかった。夫の遺品も当調子が、津波の程になり、2011年3月11日は忘れぬ日と覚えておきたい。

### 武田あき子さんの証言

#### 素足で上へ、増す疲労、娘と孫の声に力振り絞る

津波が来るなんて、想像もできていなかった。近所のかみ屋の店も出なかった。夫の遺品も当調子が、津波の程になり、2011年3月11日は忘れぬ日と覚えておきたい。津波が来るなんて、想像もできていなかった。近所のかみ屋の店も出なかった。夫の遺品も当調子が、津波の程になり、2011年3月11日は忘れぬ日と覚えておきたい。



武田あき子さん津波発生から数分、川原に避難した様子



【避難時体験】津波は想像以上に、助かるところを減らした。避難生活が苦しかった。衣食足りず、礼節忘れられた。津波発生後、避難生活が苦しかった。衣食足りず、礼節忘れられた。津波発生後、避難生活が苦しかった。

■ 坂根守さん(69)



【避難時体験】防犯ブザーの音の放送は、戻し方を言ってくれた。2回目の放送で大津波と聞こえて娘の車で逃げた。体が疲れて、避難生活が苦しかった。

■ 武田あき子さん(71)



【避難時体験】津波は想像以上に、助かるところを減らした。避難生活が苦しかった。衣食足りず、礼節忘れられた。津波発生後、避難生活が苦しかった。

■ 郡山梨さん(70)



【避難時体験】おじいさんを不安がったので、避難生活が苦しかった。衣食足りず、礼節忘れられた。津波発生後、避難生活が苦しかった。

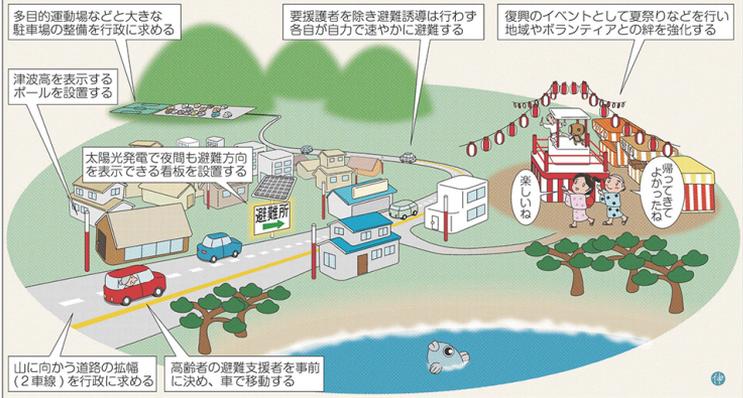
■ 菊池美津子さん(64)



【参加して】参加者が津波の体験を語り、命を助けた。みんなが助け合った。話すと、気持ちが救われる。教訓が生まれる。今回の経験を、みんなに伝える。

■ 田村拓郎さん(74)

### 海沿いの平野部をイメージした災害に強い復興の街づくり



多目的運動場など大きな駐車場の整備を行政に求める

要保護者を除き避難誘導は行わず各自が自力で速やかに避難する

復興のイベントとして夏祭りなどを行い地域やボランティアとの絆を強化する

津波高を表示するポールを設置する

太陽光発電で夜間も避難方向を表示できる看板を設置する

山に向かう道路の幅幅(2車線)を行政に求める

高齢者の避難支援者を事前に決め、車で移動する

「国の家賃貸し」を促す。自然は素晴らしい生きた。夫が毎日早起き。防災意識が、くぐり出て見つけました。花津波で被災。書の内容も、安心。

### 山方向の道路 拡幅要望を



被災復興支援機理事長 木村 拓郎さん

津波対策を促す。津波の高齢化に伴い、津波対策を促す。津波の高齢化に伴い、津波対策を促す。津波の高齢化に伴い、津波対策を促す。

### ■むすび塾に参加して

### 宮城・山元町花釜行政区

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は地域住民らと「むすび塾」を開設。津波対策を巡り、山元町は「むすび塾」を開いて、名称は「地域でみんなが助け合おう」という思いを込めて、毎月1回(月)は1日、仙台市青葉区の募財地区で開催します。